



LIVエンジニアリング株式会社

2015年度環境活動レポート

(対象期間:2015年 8月~2015年10月)



作成日: 2015年11月17日



LiVエンジニアリング株式会社

環境方針

<環境理念>

近年、地球の温暖やボーダーレスの大気汚染等の問題が顕著になっており、美しい地球と安全で住みやすい地域環境を次世代に残すため、本業である電気設備工事業の設計・施工を通じて、二酸化炭素と廃棄物排出量の削減及び資源の有効活用に全社員・協力業者一丸となり、積極的に取り組みます。

[環境方針]

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 事業所及び建設現場における電力と化石燃料の使用量を削減し、二酸化炭素排出量を削減します。
3. 事業所及び建設現場において、一般及び産業廃棄物の排出を抑制すると共に分別と再生利用を推進します。
4. 事業所及び建設現場における水使用量を削減します。
5. 事務用品のグリーン購入と資材・原材料のグリーン調達に努めます。
6. 電気設備工事の設計、施工にあたり省エネ照明器具をはじめとする省エネ機器の使用を提案し、事業活動に伴う環境改善に努めます。
7. 地域での環境保全活動に積極的に参加します。

制定日：2015年7月10日

代表取締役社長 楠本剛志

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

LiVエンジニアリング株式会社
代表取締役社長 橋本 剛志

(2) 所在地

本社 〒664-0007 兵庫県伊丹市北野6丁目7番地（登記上）
事務所 〒664-0022 兵庫県伊丹市中野東3丁目130番

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 工事統括部長 山本 拓一 ☎072-785-9114
担当者 業務部 若狭 リエ ☎072-785-9114

(4) 事業内容

電気設備工事・電気通信工事・空調設備工事・電信電話架設工事・
防災・防犯設備工事・管工事の設計及び施工

(5) 事業の規模

売上高(2014年度) 593百万円
主要工事件数 13件

	本社	事務所	合計
従業員	0名	15名	15名
敷地面積	295㎡	231㎡	526㎡

2014年度

(6) 事業年度 6月～5月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: LiVエンジニアリング株式会社
対象事業所: 事務所
活動: 電気設備工事・電気通信工事・空調設備工事・電信電話架設工事・
防災・防犯設備工事・管工事の設計及び施工

□主な環境負荷の実績

全社

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	13,371		
廃棄物排出量	kg	796		
一般廃棄物量排出	kg	796		
産業廃棄物排出量	kg	0		
総排水量	m ³	56		

(注)購入電力の二酸化炭素排出係数: 0.522kg-CO₂/kWh
(関西電力の2013年度実排出係数)

事務所

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	12,005		
廃棄物排出量	kg	796		
一般廃棄物量排出	kg	796		
産業廃棄物排出量	kg	0		
総排水量	m ³	56		

建設現場

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,366		
廃棄物排出量	kg	0		
一般廃棄物量排出	kg	0		
産業廃棄物排出量	kg	0		
総排水量	m ³	0		

※ 化学物質の保管管理していない為、環境方針から削除した

□環境目標・実績

※ 化学物質の保管管理していない為、環境方針から削除した

項目	年度	基準値	2015年		2016年	2017年
		(基準度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数	kg-CO2	3,458	5,187	—	5,083	5,031
	基準年比	(2014年)	150%	80%	98%	97%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	9,913	11,194	—	10,970	10,858
	基準年比	(2014年)	113%	99%	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	13,371	16,380	—	16,053	15,889
一般廃棄物の削減	kg	796	788	—	780	772
	基準年比	(2014年)	99%	91%	98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	0	0.0	—	0.0	0.0
	基準年比	(2014年)	0%	0%	0%	0%
水道水の削減	m ³	56	85	—	83	82
	基準年比	(2014年)	150%	97%	98%	97%
グリーン購入	%	20	25	—	30	35
	基準年比	(2014年)	—	200%	—	—
環境配慮設計・施工の提案	件	—	1	—	1	1
			1	0	—	—
		—	0	0	0	0
			0	0	—	—

注) 目標達成率(%) = 実績 / 目標 × 100とし、中期目標の削減率は2015年度目標を基準とした。

事務所

項目	年度	基準値	2015年		2016年	2017年
		(基準度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数	kg-CO2	3,458	5,187	—	5,083	5,031
	基準年比	(2014年)	150%	80%	98%	97%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	8,547	8,462	—	8,376	8,291
	基準年比	(2014年)	99%	86%	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	12,005	13,648	—	13,459	13,322
一般廃棄物の削減	kg	796	788	—	780	772
	基準年比	(2014年)	99%	91%	98%	97%
水道水の削減	m ³	56	85	—	55	55
	基準年比	(2014年)	150%	97%	98%	97%
グリーン購入	%	20	25	—	30	35
	基準年比	(2014年)	—	200%	—	—
環境配慮設計・施工の提案	件	—	1	—	1	1
			1	0	—	—
		—	0	0	0	0
			0	0	—	—

建設現場

項目		年度	基準値	2015年		2016年	2017年
			(基準値)	上段:通年 中段:8月～10月まで (目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数	kg-CO2						
	基準年比						
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		1,366	2,732	—	2,677	2,650
	基準年比		(2014年)	1,131 200%	1,478 131%	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		1,366	2,732	—	2,677	2,650
産業廃棄物の削減	kg		0	9.9	—	9.8	9.7
	基準年比		(2014年)	0 99%	0 %	98%	97%

(注)主に下請のため、電力、水は元請から支給される

産業廃棄物の削減について、取組期間中(8月度～10月度)の元請工事がないことから、目標を「0kg」とした。

注記

1. 化学物質は使用及び保管が無い為、環境方針・環境目標を策定しておりせん。
2. 電力の二酸化炭素排出量削減目標は、建設現場は下請け工事であり、元請管理或いは客先支給である為事務所だけの環境目標です。2015年度は受注件数が増加し、今後元請工事を受注する見込みがある為、従業員数を急遽1.5倍に増員したことに伴い、環境目標値を2014年度の実績値の1.5倍に見直しました。
3. 建設現場の二酸化炭素排出量削減目標は、2015年度は受注工事量が増加に伴い現場工事車両数が2倍に増加した為、環境目標値を2014年度の実績値の2倍に見直しました。
4. その他の環境目標値は、2014年度の実績値を基準に策定しております。
5. 建設現場での環境負荷(電気・水・産業廃棄物・工事資材等)は、元請管理又は、客先支給である為環境目標を策定しておりません。尚、今後元請工事を受注した際には実績を把握して、環境目標を策定して取り組む準備をしております。

□環境活動の紹介

◆環境教育訓練風景



◆火災発生時の避難訓練風景



◆地域貢献活動風景



◆事務所屋根 太陽光パネル



□環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

事務所

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取組み内容
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・夜間、休日の待機電力の削減	○	継続	一部の目標達成手段を除き、目標達成に貢献した。年度目標達成に向けて、このまま取組を推進すると共に作業の効率化を一層促進し、作業時間短縮による節電に取り組む。次年度は、1回/月ノ残業デーを設け、更に作業時間を短縮し、節電に取り組む。
・残業を減らす(作業の効率化)	△	継続	
・空調の適温化(冷房28度、暖房20度)	○	継続	
を徹底する			
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・急発進、急加速をしない	○	継続	一部の目標達成手段を除き、目標達成に貢献した。年度目標達成に向けて、このまま取組を推進する。次年度は、「車内温度」と「積載量」の適正化に取り組む。
・駐停車中のエンジン停止を励行	△	継続	
・タイヤの空気圧を適正に保つ	○	継続	
・ハイブリット車への更新	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・リサイクルしやすい製品の購入	○	継続	全ての目標達成手段が有効に作用し、目標を達成した。次年度は、文書・記録の電子化によるペーパーレスを推進する。
・無駄なコピーの削減	△	継続	
・裏紙の使用	○	継続	
・3S活動の推進	○	継続	
水道水の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・給水口を低圧、小水量に調節	○	継続	目標達成手段が有効に作用し、目標を達成した。次年度は、節水こまを取り付ける。
・洗い物は適量の洗剤で浸け置きし、まとめ洗いする	○	継続	
グリーン購入・グリーン調達			
数値目標	○		
・エコマーク商品を計画的に購入する	○	継続	エコマーク商品を積極的に購入することで、目標を大幅に達成した。次年度もエコマーク商品の計画的な購入を推進する。
環境配慮設計・施工の提案			
数値目標	×		
・LED化等省エネ機器の導入を提案	×	継続	取組期間中に元請業務がなく、目標を達成できなかった。次年度も省エネ機器導入の提案を推進する。
化学物質の適正管理			
※ 化学物質の保管管理していない為、環境方針から削除した			
事業所周辺の清掃			
数値目標	○		
・晴天時に事業所周辺を清掃する	○	継続	目標達成手段通りの実践により目標を達成した。次年度も取組を継続して地域に貢献する。

建設現場

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・急発進、急加速をしない	○	継続	一部の目標達成手段を除き、目標達成に貢献した。年度目標達成に向けて、このまま取組を推進する。次年度は、「車内温度」と「積載量」の適正化に取り組む。
・駐停車中のエンジン停止を励行	△	継続	
・タイヤの空気圧を適正に保つ	○	継続	
産業廃棄物の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・分別の徹底	○	継続	取組期間中に元請業務がなく、産業廃棄物の発生はなかった。次年度も「分別の徹底」を継続する。

(注)主に下請のため、電力、水は元請から支給される

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	判定
廃棄物処理法	各種工事から排出される木くず、混合廃棄物、金属くず、アスコン	遵守
建設リサイクル法	解体工事から排出される木くず	遵守
騒音・振動規制法	工事で使用する空圧機、バックホウ	遵守
NO _x ・PM法	工事で使用する貨物車、クレーン車、ミキサー車	遵守
オフロード法	工事で使用する大型及び小型特殊自動車、ダンプトラック	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコン	遵守
下水道法	公共下水道への接続管	遵守
グリーン調達基準	自治体、元請のグリーン調達基準	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

また、訴訟もありません。

代表者による全体の評価と見直し

・3ヶ月間の取組であったが、「環境に配慮した設計・施工の提案」を除き、目標を達成した。□□

全従業員が一丸となって、これらの取組を継続し、年度目標の達成に努める。

なお、「環境に配慮した設計・施工の提案」については、取組期間中に元請業務がなかったため、目標未達成になった。

・全従業員に環境配慮活動が浸透しつつあり、環境経営の重要性について理解を深めることができた。

・全従業員が一丸となって環境パフォーマンスを創出し、経営の継続的改善を図ると共に環境方針を具現化し、地球環境の保全に貢献する。